

うたごよみ

曾於文藝

俳句

末吉俳句会

冬木へと衣落として大銀杏

古藤 まゆ美

時雨るや銀杏大樹の息づかひ

宮路 生大子

天辺に捨葉の一つ冬木かな

本浦 玲子

大隅俳句会

ほそぼそと一人の膳や秋の夕

川崎 綾子

旅に出る朝に振り向く霜零

河南 ミホ

少年の的射る眼冬ぬくし

岩重 みどり



イルミネーション (大隅町月野)

短歌

大隅短歌会

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳 氏

子育てのピークの頃の破れたる
シーツの当て布なつかしく見る

鮫島 由美子

後になり先になりして二つ三つ
急げ鳥たちとばかりが迫る

広川 ミドリ

晴れやかに首に吊せる金メダル

牛には牛の品位あるらし

米沢 正敬

《お詫び》 11月号で紹介しました
大隅短歌会で、作者名に誤りが
ありました。お詫びして再度掲
載します。

年をとり動きのにぶい「猫のメ

イ」糞だけは穴を掘り埋めおり

入来 レイ子

梅雨明けを待ち焦がれしひととき
の浮世謳歌を蟬なき交わす

渡辺 哲夫

財部短歌会

洪柿にカラスの大群押し寄せて
食ひ逃げしたりうす暗き朝

児玉 次雄

ふたりして収穫の時を楽しみに
玉葱植うる等間隔に

杉村 リカ

晴れわたる養原台地のいも畑
紫の映ゆ紅はるか揺る

祝迫 道雄

年寄れば体は弱りし人の世に
せめて残れよ吾が仕事の花

橋口 貞男

帰り来れば菰さす我がふるさと
枯れあぜみちにからすわぐなり

山城 忠

投稿を為さざりし月の「にしき江」を
手に為す悲しさ何にも勝る

瀬戸口 芳子

とりあへず被せておこう霜よけと
古傘立てて一先ず安堵

川俣 若

文化祭いよいよ吾の出番なり
早鳴る胸の息ととのへる

井上 澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

家族中集つ 笑れ声弾ん

浜田 一好

眠び顔で 涎れも知れん

南川 句句

家族中しつ 頑張っ出ばった

桐野 奈世

何時の間か 子供も巣立つ

田代 勝泉

大隅薩摩狂句会

諭吉様へ 惚れっ抱たなあ

津留 群志

焼酎ん方が惚れっ堪んち

神宮司 素水

惚れっ染て 泣たい笑りたい

太良木 五徳

技せ惚れっ 弟子し着つみたが

新屋 涼子